

# 大塚糖液5%TN

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱上の注意の項参照

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

日本標準商品分類番号	87 3231	
大塚糖液5%TN	50mLキット	100mLキット
承認番号	20400AMZ00717	
薬価収載	1994年7月	1992年5月
販売開始	1994年10月	1992年8月

## OTSUKA GLUCOSE INJECTION 5% TN

### 【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

低張性脱水症の患者〔本症はナトリウムの欠乏により血清の浸透圧が低張になることよって起こる。このような患者に本剤を投与すると、水分量を増加させることになり、症状が悪化するおそれがある。〕

### ※※【組成・性状】

#### ※1. 組成

本剤は1本 (50mL) 又は1本 (100mL) 中に精製ブドウ糖をそれぞれ2.5g及び5g含有する。

#### 2. 製剤の性状

本剤は、無色澄明の注射液である。

pH 3.5～6.5 (規格値)

浸透圧比 約1 (生理食塩液に対する比)

### 【効能・効果】

注射液の溶解希釈剤

### 【用法・用量】

注射液の溶解希釈に用いる。

溶解操作については、裏面を参照。

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- カリウム欠乏傾向のある患者〔ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。〕
- 糖尿病の患者〔高血糖を生じ、症状が悪化するおそれがある。〕
- 尿崩症の患者〔本症には適切な水分、電解質管理が必要である。本剤の投与により電解質等に影響を与え、症状が悪化するおそれがある。〕
- 腎不全のある患者〔水分の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。〕

#### 2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

**大量・急速投与**：大量を急速投与すると、電解質喪失を起こすことがあるので、慎重に投与すること (第一次再評価結果その13、1977年)。

#### 3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

#### 4. 適用上の注意

- 投与経路：静脈内に投与すること。
- 調製時：本品を用いて溶解・希釈する注射液 (静脈内投与用) は、次の条件に適合するものであること。
  - 溶解液として5%ブドウ糖注射液が適切であること。
  - 容量として50mL又は100mLが適切であること。

- 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮をすること (患者の皮膚や器具消毒)。  
②寒冷期には体温程度に温めて使用すること。  
③開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- 投与时：溶解・希釈した注射液の用法・用量及び使用上の注意に留意して投与すること。

### ※※【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：精製ブドウ糖

(Purified Glucose)

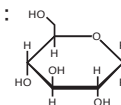
化学名：D-Glucopyranose

分子式：C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>

分子量：180.16

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、味は甘い。  
水に溶けやすく、メタノール又はエタノール (95) に溶けにくい。

構造式：



α-D-グルコピラノース：R<sup>1</sup>=H, R<sup>2</sup>=OH  
β-D-グルコピラノース：R<sup>1</sup>=OH, R<sup>2</sup>=H

### 【取扱い上の注意】

- プラボトルを正立にして薬剤瓶と接続すると、薬剤が注入針の針穴を通じてプラボトルのゴム栓面にこぼれることがあるので、プラボトルの首部を持って傾け、注入針が薬剤に触れにくいようにして接続すること。
- 注入針は薬剤瓶のゴム栓中央部に刺すこと。周辺部に刺すと薬剤瓶のゴム栓が瓶内に落ち込むことがある。
- 輸液セット装着の際は、液漏れを防ぐためゴム栓中央部を避けて周囲の○印に刺すこと。
- 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。
- 容器の液目盛りはおよその目安として使用すること。

### 【包装】

大塚糖液5%TN 50mL 10本 PLABOTTLE (注入針付)

100mL 10本 PLABOTTLE (注入針付)

PLABOTTLEは、弊社の開発したプラスチック製輸液用ボトルである。

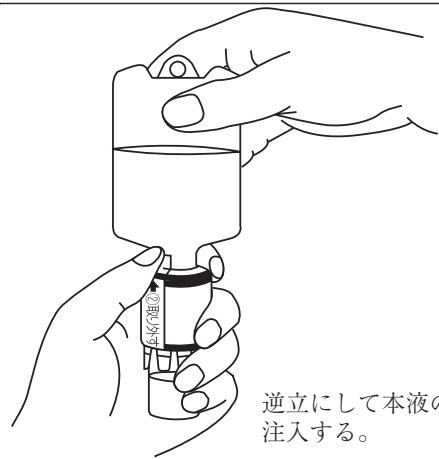
# 溶解操作方法

## 注入針部

(内部は滅菌済み)

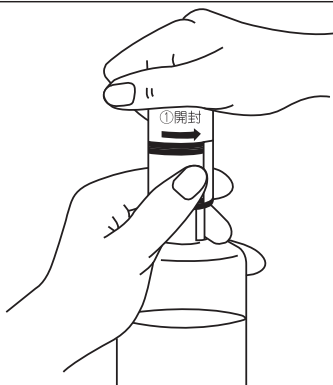


3



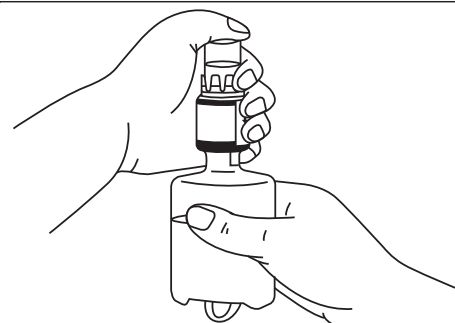
逆立にして本液の適量を注入する。

1



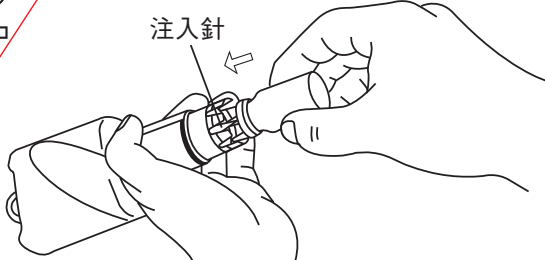
アダプターを持ち、キャップを①開封の→方向に回してシーンを切り、キャップを外す。

4



プラボトルを下にし、薬剤瓶とプラボトルを手で固定して振り混ぜ薬剤を溶解した後、静置すれば溶解液はプラボトル内に戻る。なお、通液しない場合はポンピング又は薬剤瓶を軽くたたいて通液させる。

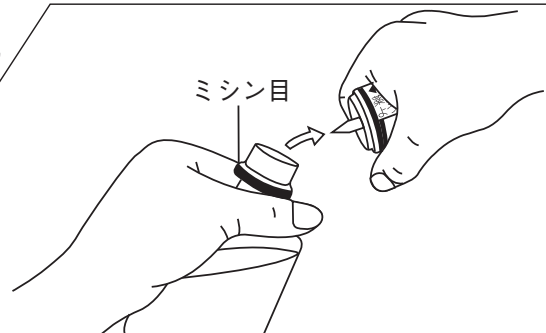
2



プラボトルの首部を持って傾け<sup>※</sup>、注入針の先端に薬剤瓶のゴム栓中央部をあて、薬剤瓶をまっすぐ最後まで押し込む。注入針が完全に刺し込まれていることを確認する。

<sup>※</sup>プラボトルを正立にして接続すると、薬剤がプラボトルのゴム栓面にこぼれることがある。

5

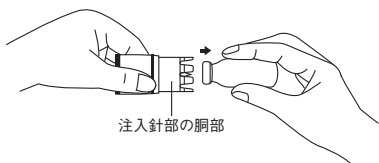


プラボトルの首部とアダプター及び薬剤瓶を保持し、②取り外すの→のところ(ミシン目)から折るようにしてアダプターごと注入針と薬剤瓶を外す(アダプターのシーンをはがさなくても外すことができる)。

## 注入針部の廃棄方法

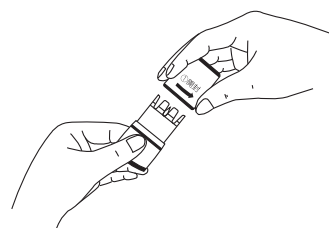
アダプターから薬剤バイアルを引き抜き、分別する。

①



アダプターを持ち、薬剤バイアルを抜くと、注入針部はカチッと音がしてアダプターに固定される。固定されない時は注入針部の胴部を持って固定されるまで引上げる。

②



注入針部がアダプターに固定されたことを確認する。なお、廃棄時にゴミ袋を破ることがないようにキャップを装着することが望ましい。



販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田司町2-9

Otsuka

製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

0709 S